1液水性反応硬化形アクリル樹脂多機能塗料

JIS K 5660
つや有合成樹脂
エマルションペイント

オーデグロス

防藻・防かび

多機能形水性つや有り塗料

ホルムアルデヒド放散等級	F☆☆☆☆

- **密着性** にすぐれた、1液水性反応硬化形塗料です。
- 従来GPを超えた **光沢感** がある水性つや有り塗料です。
- **乾燥が速く**、作業性にすぐれます。
- **防藻・防かび** 機能があります。
- **透湿性** があります。
- **防火材料認定**（認定番号NM-8585・QM-9816・RM-9364）
- **JIS K 5660つや有合成樹脂エマルションペイント** 合格

※7分つや有り、5分つや有り、3分つや有り、つや消しは、JIS規格品ではありません。

本商品には当社工場にて製造もしくは調色したJIS表示品と店頭にて調色していただく為のJIS非表示品があります。
JIS表示が必要な場合はご注文時にその旨をご指示ください。

■ 性　能

	オーデグロス	反応硬化形他社品GP	従来GP	備　　考
光沢	85	84	80	60°鏡面光沢度
隠ぺい率	0.97	0.96	0.98	白および淡彩
耐水性	○	○	○	23℃ 4日間浸せき
耐酸性	○	○	○	0.5%H_2SO_4水溶液
耐アルカリ性	○	○	○	$Ca(OH)_2$飽和水溶液
耐候性	○	○	△	キセノンランプ法 1200時間
透湿性	○	○	○	ASTM E96 B法
旧塗膜密着性	○	△	×	※
硬質塩ビ密着性	○	×	×	—
防藻・防かび	○	×	×	JIS Z 2911

※旧塗膜の劣化状況によって、下塗りにシーラーなどを必要とします。

■ 種類と容量

種　　類	容　　量
白	15kg
5分つや有り白	15kg
3分つや有り白	15kg
つや消し白	15kg

Basic & New
NIPPON PAINT

オーデグロス塗装仕様

■内壁の新設

工程	塗料名	塗り回数	使用量（kg／m²／回）	塗り重ね乾燥時間（23℃）	希釈剤	希釈率（%）	塗装方法
素地調整	ごみ、未硬化セメント粉末、砂じん、油脂分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し乾燥した清浄な面とする。						
下塗り	ニッペ水性カチオンシーラー透明	1	0.10～0.16 注)	4時間以上	無希釈	—	はけ・ウールローラー
	ニッペ水性カチオンシーラーホワイト				水道水	0～10	
上塗り	オーデグロス	2	0.13～0.15 注)	3時間以上	水道水	0～10	はけ・ウールローラー
						5～10	エアレススプレー

注）「水性カチオンシーラー」の塗付け量は、0.09kg/m²/回です。「オーデグロス」の塗付け量は、0.12kg/m²/回です。
・使用量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料（希釈する前）の使用質量
・塗付け量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料（希釈する前）の付着質量

■鉄面・亜鉛メッキ面・アルミ面の塗り替え

工程	塗料名	塗り回数	使用量（kg／m²／回）	塗り重ね乾燥時間（23℃）	希釈剤	希釈率（%）	塗装方法
下地調整	活膜は残すが、ぜい弱化した塗膜の表面およびさびなどは、ディスクサンダー、スクレーパーなどで入念に除去する。油類は溶剤拭きを行い、清浄な面とする。						
下塗り	ハイポン20デグロ	1	0.18～0.22	16時間以上7日以内	ハイポンエポキシシンナー	0～5	はけ・ウールローラー
上塗り	オーデグロス	2	0.13～0.15	3時間以上	水道水	0～10	はけ・ウールローラー
						5～10	エアレススプレー

※鉄面の場合、下塗りは「速乾PZヘルゴンエコ」も使用できます。

■外壁の新設

工程	塗料名	塗り回数	使用量（kg／m²／回）	塗り重ね乾燥時間（23℃）	希釈剤	希釈率（%）	塗装方法
素地調整	ごみ、未硬化セメント粉末、砂じん、油脂分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し乾燥した清浄な面とする。						
下塗り	ニッペ水性カチオンシーラー透明	1	0.10～0.16	4時間以上	無希釈	—	はけ・ウールローラー
	ニッペ水性カチオンシーラーホワイト				水道水	0～10	
中塗り	ニッペタイルラックEMA一Sベース100K	1～2 注)	1.40～2.00	16時間以上	水道水	1～3	タイルガン
上塗り	オーデグロス	2	0.13～0.15	3時間以上	水道水	0～10	はけ・ウールローラー
						5～10	エアレススプレー

注）主材（中塗り）の使用量は、塗り回数1～2回で使用するトータル量です。

■外壁・準外部・内壁の塗り替え

外壁（リシン・吹付けタイル・単層弾性塗膜など）準外部（OP・GP・VP面など）内壁（EP・NADアクリル面など）

工程	塗料名	塗り回数	使用量（kg／m²／回）	塗り重ね乾燥時間（23℃）	希釈剤	希釈率（%）	塗装方法
下地調整	活膜は残すが、ぜい弱化した塗膜の表面および膨れなどは入念に除去する。下地を十分に乾燥させ、よごれ、付着物などを除去し、清浄な面とする。外壁の場合、粉化物、付着物などは高圧水洗機を使用し、除去、清掃を行う。						
上塗り	オーデグロス	2	0.13～0.15	3時間以上	水道水	0～10	はけ・ウールローラー
						5～10	エアレススプレー

●吸い込みの著しい下地の場合は、下塗りに「水性カチオンシーラー」を、外壁で表面にヘヤクラックのある下地の場合は、下塗りに「アンダーフィラー弾性エクセル」を塗装してください。

※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。
塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください（縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります）。
※旧塗膜は、健全な状態であることを想定しています。
※カタログに記載されている内容は一般的な環境下での施工を想定して記載されております。特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社営業までご相談いただきますようお願いします。

安全衛生上の注意事項（オーデグロス白）

横倒禁止

- 本来の用途以外に使用しないでください。
- 使用前に取扱説明書を理解して、取り扱ってください。
- 取扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行ってください。
- 適切な保護手袋／防毒マスクまたは防塵マスク／保護眼鏡／保護面／保護衣を着用してください。
- 必要に応じて個人用保護具を使用してください。
- 飲み込んだ場合:気分が悪い時は、医師に連絡してください。口をすすいでください。
- 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外してください。その後も洗浄を続けてください。
- 眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けてください。
- 取り扱った後、手を洗ってください。
- 粉じん、蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった時には、安静にし、必要に応じてできるだけ医師の診察を受けてください。
- 暴露した時、気分が悪いなどの症状がある場合は、医師に連絡してください。
- 容器からこぼれた時には、砂などを散布した後処理してください。
- 施錠して子供の手の届かないところに保管してください。
- 直射日光や水濡れは厳禁です。
- 塗料等の缶の積み重ねは3段までとしてください。
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。輸送中も50℃以上の温度に暴露しないでください。
- 内容物／容器を廃棄する時には、国／地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
- 容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。
- 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。

※上記の表示は、一例です。色相などにより、容器の表示とは異なる場合があります。
□詳細な内容、表示例以外の製品については、安全データシート（SDS）をご参照ください。
□本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。

危険有害性情報

飲み込むと有害のおそれ／強い眼刺激／発がんのおそれの疑い／生殖能力または胎児への悪影響のおそれ

危　険

施工上の注意事項（詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください）

1. つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
2. つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
3. 過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
4. つや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんし、均一な状態でご使用ください。
5. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、塗り板見本を参考に試し塗りをしてください。
6. つや調整品は、塗料液が分離しやすいので、よくかくはんしながらご使用ください。
7. 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。既に繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
8. 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
9. 状況に応じて、汚染が発生しそうな個所には、ニッペクリスタコートをオーバーコート剤として塗装することをおすすめします。
10. 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗装中の水溶成分が表面に溶出し、黄色い粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
11. 塗装後 乾燥不充分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場所には、膨れ、はく離、割れ、白化、しみが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。しみが発生した場合は乾燥後水抜きして除去してください。
12. 色相によっては降雨、結露によって濡れ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
13. 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
14. スプレーノズルの先端は、時々水洗いをしてください。作業能率の低下および塗りむらの原因になります。
15. 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
16. 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
17. 反応硬化タイプの塗料のため、使用後のはけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
18. 動物にはけ、はけが固まったりダマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
19. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
20. 既存塗膜のはく離個所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行なってください。
21. 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ一液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。
22. 塗替え時のシーラーは、ウルトラシーラーⅢまたは水性カチオンシーラーをご使用ください。溶剤形シーラーのご使用は、旧塗膜の種類によっては溶剤膨れを発生させることがあります。
23. シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
24. 蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階で既に旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
25. 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケット科学社製CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケット科学社製Hi500シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
26. 表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
27. ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材（ニッペセメントフィラー、ニッペフィラー200）などで処理してください。（合成樹脂エマルションパテの使用は避けてください。）
28. 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
29. 素材にセメント成分などが使われている場合は、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので溶剤系シーラーをご使用ください。
30. 新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボートなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ一液浸透シーラー、ニッペファイン浸透性シーラーをお使いください。
31. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
32. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
33. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行ない、火気厳禁にしてください。
34. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
35. シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペプリードオフプライマーを下塗りすることで、汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
36. 笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
37. 薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
38. 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。
39. 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
40. 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような個所に使用する場合は、ファインシリコンフレッシュクリヤーを上塗りに塗装してください。
41. 大型壁面塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法等の条件を同一にしてください。
42. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
43. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相が異なって見えることがあります。
44. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りは出来る限り入り隅まで入れてください。
45. 汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法等の塗装条件を同一にしてください。
46. ローラー、はけなどは、他の塗料での塗装に使用するとハジキなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
47. 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
48. 使用前に内容物が均等になるようにかくはんし、開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
49. 大気中の浮遊鉄成分が多い地域では、この鉄成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。

日本ペイント株式会社

お客さまセンター
☎03-3740-1120
☎06-6455-9113
http://www.nipponpaint.co.jp/

●本カタログの内容については予告なしに変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。
●「本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。」
●「©Copyright 2015 NIPPON PAINT Co.,Ltd.All rights reserved.

●このカタログは再生紙を使用しています。

■詳しい情報はホームページで　日本ペイント　建物　検索　http://www.nipponpaint.co.jp/biz1/building.html

カタログNo.
NP-S163
NB150704T
2015年2月現在